

しあわせのペンリレー No.15

セカンドライフ～ソフトボール協会の活動を通して～

38年間の教職生活を終了し、4月1日を迎えました。特に変わりはありませんが、今まで背負ってきた重責から解放され、携帯電話を常に近くに置いておく生活とは、やはり違うものでした。

幼い頃から、ソフトボールや野球をやってきて、9年前からソフトボール協会の活動に携わることになりました。志摩市で開催される予定であった国民体育大会ソフトボール競技の審判資格を取得してほしいと要請を受けて、数年かけて取得しましたが、2020年の三重とこわか国体が中止になってしまいました。残念でしたが、その後、志摩ソフトボール協会事務局長の要請を受けて、今は、事務局と審判の活動をしています。

令和8年度は、10月に全国大会を志摩市に誘致したため、4月からは、事務局長として大会準備を進めています。事務作業や交渉、依頼、注文等、運営側としての仕事は多岐にわたっているので、慌ただしく過ごしていますが、志摩市のために少しでも貢献できればいいかな、という思いで日々活動しています。

その他にも、志摩市スポーツ協会理事長や自治会組頭、青少年育成市民会議理事、某組織団体の推進理事等の依頼を受けて、地域貢献に勤しんでいます。いくつか掛け持っています。やはり今までの重責とは違う中での活動は、気持ち的には全然違うように感じています。

大好きなソフトボールに携わりながら、選手としても試合に出て、また、運営側として志摩市に集まる選手に喜んでもらえるよう、次回は、旅行で志摩市に行ってみたいと思えるよう、協会の仕事をしていきたいと思っています。

志摩市 山岡幸雄